

第 23 回 揖保川流域委員会 議事録（概要）

日 時：平成 19 年 11 月 21 日（水）10:00～12:00

場 所：宍粟防災センター 5F ホール

出席者：委員 10 名、国土交通省 18 名、自治体関係者 6 名、傍聴者 16 名

1. 今回の議題について

議題	・ 揖保川河川整備計画段階における環境影響等分析計画書(案)の修正点について ・ 分析計画書についての補足説明 ・ 住民説明会の結果について
----	--

2. 環境影響等分析計画書(案)について

【説明概要】

前回の第 22 回委員会で河川管理者より提案された「揖保川河川整備計画段階における環境影響等分析計画書(案)」について、委員よりいただいたご意見を踏まえた修正点についての説明、分析計画書についての補足説明が行われました。

また、河川管理者が 9 月末に行った住民説明会でのご意見、アンケート結果が紹介されました。

【意見および質疑応答】

目標洪水の設定について、治水の面からは問題ないと思います。しかし、当然それに利水、環境の視点を考慮する必要があると思います。

河川管理者からの回答

掘削などの治水に関するインパクトが最も大きいため、まずは治水の面から検討するために目標洪水を設定し、検討のパターンを絞り込みました。それに、利水、環境の視点を付加させていきます。

地域特性を踏まえた具体的な検討を行うことにより、川が住民にとって身近なものとなり、住民が関心を持つ中で議論を展開させていくことが求められていると思います。

土木の専門知識がない場合や、洪水を実際に体験したことがない場合に、多くの複数案を提示されても理解し難いと思います。具体的で分かりやすいプラス面、マイナス面を提示していただきたいです。

環境の改変を少なくすることを最大の目標として計画してほしいです。

地域特性も変化していくので、それに対応できるような柔軟な計画にしてほしいと思います。

多くの意見が出されたときには住民の意見を一番大事にして、最適な方法を選択してほしいというのが皆の願いと思います。

提示されている計画書(案)はボリュームが大きく、この 1 冊を理解するのは難しいと思います。何を抽出し、どの分析手法で検討するかという計画書の段階で、結果が決まってしまうようなものなので、例えば、評価する視点（流域全体なのか、ポイントなのか等）でグループ分けするなど、計画書の内容が分かりやすくなるよう工夫して下さい。

河川管理者からの補足説明

検討にあたってのプロセスや判断するための条件などを詳細に示すと、どうしても現在提示している計画書(案)程度のボリュームになってしまいます。全部を熟読するというより、必要に応じて字引のような使い方をさせていただきたいと考えています。分かりやすい表現方法で、意見をいただきやすいようにしたいと思います。保全すべき環境として具体的に場所をキ口数で示してありますが、示してあるものしか影響評価しないということでしょうか。

河川管理者からの回答

環境のすべてを保全するのではなく、その中から積極的に保全すべきもの、なるべく改変しないように努力するものと区別しています。積極的に保全すべき場所についても、今後、議論してよしいと思います。

住民に問題提起をする際に重要だと思うことについてコメントを頂きたいと思います。

河川管理者からの回答

治水、利水、環境ともすべてを思いの通りに達成することは不可能なものだと認識しています。トレードオフの関係であるため、状況に応じて譲れるものと譲れないものの折り合いをつける必要があります。これを今、議論することにより、振り出しに戻らないように進めていきたいと思います。

保全すべき環境として、横断方向の連続性として上流区間だけがあがっていますが、上流に限らず鷺崎のあたりなども重要と思います。

時間も予算もない中で、トレードオフの関係についていかに住民に理解して頂くかが重要であるので、重点的な箇所は押さえて進めて欲しいと思います。住民説明会のアンケート結果を見ると、トレードオフの関係について住民の理解が十分に至ってはいないと感じます。

分かりやすくすること、情報を隠すのとは必ずしもイコールではありません。分かりやすさと正確さが大事だと思います。

住民会議では30年先の問題ではなく、目先の問題が取り上げられがちなので、別途会議を設けないと将来を見通した議論とはならないと思います。また、プラスの面とマイナスの面を明確にして、納得の上で整備をすすめていくべきだと思います。

治水や利水に関する記述は土木の専門用語や行政用語が多く使われているため、用語の解説やコメントの付加などで、分かりやすくして欲しいと思います。

3. その他

【説明概要】

次回の第24回委員会は分析報告書(案)の提案とし、12月中旬～1月下旬に開催予定とします。

4. 傍聴者からの意見

【意見】

住民が快適に利用できるように堤防道路を広くしてほしい。

山林の保水力の問題について対応してほしい。

河川事業の予算だけでなく、関連機関と連携した事業を行ってほしい。

以上